

ケガや病気により脳に損傷を受けたことが原因で、注意力や記憶力が低下したり、物事の段取りが難しくなったり、感情のコントロールが難しくなるなどの症状があります。

外見からはわかりにくい「見えない障がい」であるため、周囲の人が理解しにくく、本人も自分の障がいを十分に認識できないことがあります。

病気や事故から社会復帰を果たした後、「以前と何かが違う」と周囲や本人が感じていても、適切な支援が受けられないと、誤解やトラブルにつながることもあります。

じ

事

例20 職場で

私は病気の後遺症で高次脳機能障がいがあります。発病前の職場に復職しましたが、物事や約束を忘れやすいため、発病前と同じようなペースで仕事をするのが難しいです。

こ

んな配慮をお願いします

高次脳機能障がいは、病気や事故などで脳に損傷を受けた場合に起こる後遺症の一つです。物事に集中できない、新しいことを覚えられない、指示がないと行動できないといった困難を抱えています。見た目は病気や事故前と変わらないため、周囲が障がいを理解できないことで状況が悪化することもあります。本人の状態に合わせて仕事の内容や量を調整したり、周囲の職員が支援するなどの配慮をしましょう。

また、大事なことは「ゆっくり、分かりやすく、具体的に」伝えるようにしたり、忘れないようにメモにして渡すなどの工夫をしましょう。

